

ら、苦しみを歌にしたらどうかとすすめられたんです。「旅人」という名も黒木さんを通じて牧水先生からつけてもらいました。

忠犬ハチ公との出会い

昭和八年、一年前に上京した島田磐也君（真町人生の作詞家で人生詩人といわれた）や山口白陽（郷土作家）さんの懸賞小説入選に刺激されて、元来まじめな性分が好かんだったので教員をやめ上京しました。

牧水先生の右腕の菊池先生を頼って上京したんです。当時は、大学を出ても職のない時代で大変でした。島田君が残飯を喰っていたのはその頃ですよ。私は幸いに退職金とサンデー毎日に小説が当選して少し金がありましたので、先妻と息子それに妹と私の四人、三部屋つきのアパートに住んでいました。

初めの頃は菊池先生の短歌雑誌を手伝いながら、家庭教師をやりました。収入は教員のと比べると低かったが、教員が卒業して減ってしまえば、金が入らなくなるとはとてはとうとう四畳半一間に四人暮らすようになりました。そんな生活に困っている頃、島田君の友達で彫刻家志望の松田君というのが熊本からたずねて来ました。

彼の話によると、熊本では私の名が歌人として売っていたらしいんですが、ど

うして東京での生活は大変なものですよ。島田君は神田で三畳の部屋に住んでおり、行く所がないものですから、彼は私の家の押し入れにいましたよ。

そのうち、松田君は気の毒になったんでしよう。何か手伝いたいと言いだしましたので、渋谷駅の近くの老夫婦がやっていた焼鳥屋をゆずり受け、商売を始めました。道具一式八十円は当時としては大金で、家内の着物、時計、結婚衣装を入質したんです。結局後では流れてしまいましたが、しかし毎日日銭が入ってくるのには助かりました。

ふた月ばかりして、松田君が都合でやめましたので、その後を受けて私がやり始めたんです。でも、半年と続きませんでしたね。というのは、隣にきれいな女が焼鳥屋を始めましたので、私の方が全然売れなくなりました。夏の暑い時には焼鳥は一晩でだめになるし犬に喰わせるしかありません。ところが、喰わせていた犬というのが、あの銅像になった忠犬ハチ公なんです。ハチ公はその頃もうよぼよぼになっており毎晩私の所にやってきました。図体は大きかったです。性格はおとなしく、渋谷の銅像を見ると今でもなつかしくなります。

しかし、生活の方はいよいよいかにつなりました。それで、高校教師の免許を持っていましたので、東京都の試験をうけ、また教師になりました。

もなりました。三十二年と三十五年にかけては「男対男」「黒帯風雲録」等の武道小説が映画化されました。

闘い

昭和三十三年の事です。詩人、作曲家などで組織する日本音楽著作権協会の役員選出に端を発し、協会役員による総額三億円を超える背任横領事件が発覚したのです。この年から四十四年までの六年間、私は歌を忘れ、小説を書くのを放棄して、問題解決のため命をかけて取り組みました。

私自身、決して立派な人間とは思っておりません。しかし隠し事はやりません。人が隠れて悪かごつばすと腹が立つとです。

今から思うと、この性分のおかげで、大分、後悔のほぞを咬みましたよ。

その事件ですが今では、協会に入る作家の印税は百億円近くあると思います。が、当時は十四～五億円位だったでしょう。毎年、会計報告はあつていて、皆んなおかしいと分つていながら、誰れも黙っていて、しゅく清をやらなかった。その頃の会長の権力は絶大で、反対する者はめしげが喰えませんでしたよ。

そんな時、私が爆弾宣言をやったのです。会長側には、有力政治家、監督官庁がついていましてね。会員は千二百人い

ヒット曲世にでる

昭和十年、テイイクから声がかかりました。島田君は先にテイイクに入っていましたから競争相手になったわけです。それから四年程たったある日のこと、電話がかかってきて、二時間後にディック・ミネの吹きこみがある、曲があるからこれに合った歌詞をつくってくれというのです。ミネは当時ピカ一の歌手でした。なにしろ急なものですから、なかなか歌詞は出てきません。日延べでも出来ないものかと思いましたが、一時間後にはミネが来るというし、大変困りました。

ところが丁度その時、隣の部屋に広沢寅造が「清水一家」の浪花節を吹き込んでいたんです。じつと聞いていると、大政・小政・石松の名が出てきたので、これはノと思いついで書き上げたのが「清水港の名物」はで始まる「旅姿三人男」です。それまで、清水に行ったこともないし、この歌が老後をたすけるとは思いもしませんでした。題目に「旅姿」とつけたのがよかったです。

その時、ミネが吹き込んだのが、私の歌の他、島田磐也の「上海ブルース」でした。同じ日に楠敏夫が古賀政男の「人生劇場」を吹き込み、三曲ともヒットしましたが、こんな事は歌謡界ではめずらしいことなんです。テイイクは今でも

ましたが、三百四十七人八人が私の側につき、三百人余りは無関心、残りが反対側につきました。

私も個人的には妾を困ったりして、決して大きなことは言えないわけですが、これは私個人の問題であり、一方は会員のことですから問題が違いますよ。しかし、私も私生活を正すため、女とは縁を切りました。

この問題は結局、うやむやになってしまいました。ロッキード問題のように、新聞記者にいきの良いのがいればよかったんですがね。

この事件のため、私は家や財産を売ってしまいました。しまいに、体をこわし、入院したため、裁判所が仲裁に入っではなかつたです。毎晩、くやしくて眠れませんでした。

それでも、私が生命をかけて闘った甲斐があつて、著作料もあたり前に入ることになりました。協会では、宮本の銅像を建てようなどと言っていますが、大事な時には味方せずに、今頃言っても遅いのですよ。

あの頃の事を思うと、今でも、どなりこんでいきたい気持ちです。

人生最良の日

私は、今では歌や小説を書くのを忘れ

この三曲でもてているようなものですよ。

「馬鹿は死ななき直らない」という寅造の有名な文句はこの時からはやったものです。

恐喝事件

「旅姿三人男」がヒットした翌年の昭和十五年、当時流行の大陸雄飛熱に刺激をうけて満州に家族を引きつれて渡りました。満州では満鉄本社の社員会で発行していた「協和」という雑誌の編集記者になり満州や北支を奔走して記者生活をしましたが、同時に当時の大日本雄弁会講談社特派作家として「キング」や「婦人クラブ」等の雑誌にも記事や小説をかきましたよ。昭和二十年、終戦直前の船で両親の位牌を抱いて郷里の菊陽町の近くの大津町に帰って来ました。

戦後、当地で週刊新聞を発行していた頃、幼稚園を建設しようと計画し、寄付金を集めていたのですが、その事で恐喝事件にひっかかり、ひどい目に合いました。事の起りは、地元の有力者で、当時やみ屋をやつて金をもうけた男に、幼稚園の寄付を要請したためです。「あなたのような金持ちが寄付せんとは何事か」というようなことを言った私の言い方にも問題があつたんですが、これが事件になるには裏があつたのです。実は、

るほどに絵に夢中になっていきます。誰れの教えをうけたわけでもなく、勿論、展覧会に出品したこともありませぬ。

去年、スウェーデンで精薄児の学校で絵の教師をしている息子が、個展をやるから、私の絵を持ってこいと言うので、二十点ばかり持っていきましました。現地の新聞が詩人の描いた絵だと宣伝してくれたおかげでもあつて、一週間で売り切れてしまいました。自分の絵がよいか悪いのか分りませんが、病気をしてから絵が一番です。座つても描けますからね。宮本は、これ以上の人間にはなれんし、今更ら、ベストセラーを書こうとも思いません。

郷里の菊陽町には、最近よく帰りますよ。家が建て込んで、昔に比べると大分変りましたね。

三年程前から、郷里のお役に立てばと思ひ、町に図書を寄贈しております。

末息子の四男健夫が五月五日生れなので、毎年その日に健夫名儀で五万五千円、今後二十年間、私が死んだ後まで贈るよう念書を入れております。

去年の十一月三日、皆さん方のお陰で、菊陽町公民館の敷地に、私の歌碑が建ちました。除幕式に出ましたが、人生で一番幸せな日でした。家内や妹にも、この日は、私が一番よく見えたんじゃなかですか。苦勞した甲斐があつたと思つております。また、碑を建てていただいた皆さんには心から感謝しています。